

人間学部卒業生から後輩へ 「キャリアてっぺんフォーラム」で伝える想い

厳しい就職戦線を勝ち抜いて、社会人として第一線で働いている人間学部卒業の先輩たちが、後輩にエールを贈りました。



山下 慎也さん

株式会社 マルエツ
山下 慎也さん
(2017年心理学卒業)

先輩が後輩のために「就職活動での体験」を伝える「キャリアてっぺんフォーラム」を開催しました。先輩が後輩にエールを贈りました。

足指の怪我により、包帯を巻いた状態で通学を始め、各種説明会に遅々とした山さん。その中で、一番怪我の状態を心配し、心温まる対応をしてくれた同社に就職を希望しました。



室松さん

株式会社 伊東屋
室松 智恵さん
(2016年児童発達心理学卒業)

3年次最後の保育実習の時に腰を痛めてしまった室松さんは「保育士になって仕事を続けていけるか」という不安があり、一般就職に転向を希望。既に4年生になってしまったため、キャリアセンターを訪れ「まず業界を絞ります」というアドバイスを受けました。

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。



本橋さん

証券会社
本橋 彩花さん
(2017年人間福祉学卒業)

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。



八坂さん

株式会社 ロッテリア
八坂 真奈美さん
(2017年心理学卒業)

同社のハンバーガーを食べ、そのおいしさに感動した八坂さんは同社に興味を持ちました。「コミュニケーション」が得意な八坂さんは、同社で働くことができて、自分の得意な分野で活躍できることに喜びを感じています。

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。



工藤 学生実行委員長



司会者 花城さん

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。

輝く卒業生

本学を卒業後、それぞれの専門分野を活かして、後輩たちと共に活動したり、講義を行っている卒業生を紹介しました。

リミック株式会社
小野 真菜さん
(2009年人間学部卒業)



小野さん

大手パレル会社で勤務後、CSR(社会貢献)の観点から事業活動を自主的に社会に還元する責任を担うことに決意。現在は、環境に良い商品を開発する責任を担うことに決意。現在は、環境に良い商品を開発する責任を担うことに決意。

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。

株式会社 木暮旅館
木暮 美奈子さん
(2007年経営学部卒業)



木暮さん

本学では、一般社団法人東京エコーエッセンス協会の協力を得て、経営学部3年生の木暮美奈子さんが、後輩たちに講義を行っています。



木暮さんの講義を熱心に聴く学生たち

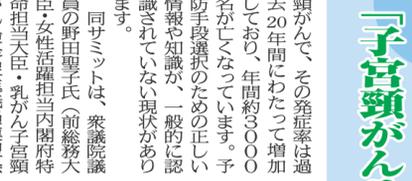
大学 学生が「ソニータ」自主上映会を開催



甲斐田教授(前列左)と上映会を開いた学生たち

外国人語学国際教養センターでは、開発途上国における子どもの支援や児童労働などをテーマに、国際協力最前線を活躍する教職員が講師を務めています。

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。



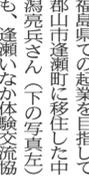
伊藤さん(左)と川田さん

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。

大学 「文京エコーサイクルフェア」に出展

人間学部コミュニケーション学部の中山智晴学部長・教授の授業を履修する学生たちが10月27日、教育の森公園(文京区大塚3丁目)で開催された「文京エコーサイクルフェア」に出展しました。



出展の様子

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。



出展の様子

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。

大学 農業インターンシップ生「商売会まつり」で発表



講演中の古市助教



吹奏楽部の演奏

都市農村交流事業として「商売会まつり」を開催しました。農業インターンシップ生が、それぞれの専門分野を活かして、後輩たちと共に活動したり、講義を行っている卒業生を紹介しました。

「就職に正解・不正解はありません。周囲が次々と内定を取っても、それが自分に希望する企業ではない場合もあり、また、遅い内定であっても、本当に自分に合った企業というところまで、焦ることなく自分のための就活をしてほしいと思います」と後輩にアドバイスしました。

高校 SGHアソシエイト アジア5大学の学生が来校

本校は、文科省よりのスーパーグローバルハイスクール(SGH)アソシエイトの指定を受けています。

生徒たちは、様々な分野の専門家の指導を受けながら、個々の研究活動に動んでいます。今回は「アジア各国のトップ大学の学生たちとの交流」について、佐藤泰正高等部副教頭の報告を紹介します。

国際教養コースの生徒たちは、SGHアソシエイトの課題研究のひとつ「グローバル・リサーチ」で、東京海洋大学グローバル教育研究推進機構の小松俊明教授から「アジア研究」の指導を受けています。

小松教授の取り組みの一環で10月29日、香港大学、シンガポール国立大学、チエロンコン大学／フラバ大学(タイ)、台湾大学の学生が、東京海洋大学の学生と共に来校。以下の3部構成で交流が行われました。

★第1部「国際教養コースの生徒たちによる歓迎式」国際交流委員の生徒を中心に、学校の沿革や校歌、書道部によるパフォーマンス、剣道部による模範演技を実施。これまで、タイやニュージーランドの姉妹校からの生徒訪問等の対応をしてきたことから、生徒たちの振る舞いも堂に入っていました。

★第2部「プレゼンテーションへの参加」内容は、それぞれの国の地理や食べ物、文化などの紹介や、学生たちが取り組んでいる研究など様々。最後には各教室で大きな笑いも起こり、すっかり打ち解けた様子でした。

★第3部「トークセッション」東京海洋大学を含むアジアの大学生と、アジア研究の生徒3名1組のグループで実施。小松教授から異文化理解促進のための話題が出され、各グループ英語で話し合いました。各国を代表する大学の秀才たちも頭をひねる内容に、話が盛り上がりました。



大学生と共にプレゼンに臨む生徒(左)



難題についてトークセッション



大学 「自転車VRシミュレーター体験会」実施



大学生の自転車安全乗車を体験会に真剣に臨む参加者 啓発するメンバー

経営学部の新田都志子ゼミナールに所属する3年生の5名が、同ゼミ生の協力を得て10月31日、仁愛ホールにて「自転車VRシミュレーター体験会」を実施しました。

(写真左から)上野敦子さん、池田奈都弥さん、土田恵里花さん(リーダー)、関根航平さん(サブリーダー)、蛭原佑貴さんは、「交通ルールの遵守率を向上させ、安全な社会を目指す」ことを研究目的として、自転車乗車時の安全教育を受ける機会が少ない大学生を対象に、安全乗車を啓発する活動を行っています。

それに先立ち、5名は警視庁交通安全教育センターでの講義や実技などの自転車教育イベントに参加し、「記憶に残りやすく持続性があるVRが大学生にとって最適な教育」であると分析。VRとは、コンピュータの作り出す仮想空間を現実であるかのように知覚させることです。

啓発活動の一環で、パシフィックコンサルタンツ株式会社との協力を得て、同社が提供する自転車とVRが一体となった機器(VRシミュレーター)を使用し、交通ルールを学ぶ「大学生対象の自転車交通安全教室」を実施しました。VR専用のゴーグルを装着してスタートすると、走行に合わせて画面の景色や道路が動き始め、実際に自転車に乗っているようなリアリティに富んだ体験学習で、ルール違反をする人にも分かるなどの事故を疑似体験し、走行を点数評価できるようなっています。この日の体験者は約100名。中には100点近くを出す留学生もいて、正確な運転が注目されました。

課題として「違反箇所が判らない」「ゲーム感覚になり、競争意識が出る」「大人気で実施できない」「人数で実施できない」が挙げられ、現在、同社と共に改善策を練っています。

リーダーの土田さんは、次のように前向きに考えています。「大学の開催を目標にしているため、関東圏内の76校に電話やメールでアプローチしたところ、14校が興味をもってくださったため、実際にプレゼンに行きました。しかし、費用や集客が見込めるかどうかという問題点があり、普及方法を考えることが難しいと感じています。まずは実績を積みながら、他大学の開催を望めたいため、本学で開催して実績を積み、改めて他大学へのプレゼンに臨みたいと考えています」

最初に、渡辺助教が「地域のつながり」をテーマに作曲したオリジナル手話うた「まのこえ」そのおとを伝えるために結成したグループ「ドーナツレモン」が登場。「明日があるさ」「空も飛べるはず」「おどるボンゴリン」などを手話を交えて披露し、会場一体となって楽しみました。続いて、西田さん、長嶋さん、渡辺助教が「サヨナラの意味」、西田さん、渡辺助教が「Mr. Heart」の「Love」を演奏し、大きな拍手を浴びました。

小林学科長と渡辺助教は、見事なデュオでラフマニノフ「ヴォカリーズ」、「ニュー・シネマ・パラダイス」より「愛のテーマ」などを披露し、美しい音色で観客を魅了しました。最後に全員で観客と共に「まのこえ そのおと」を歌い、楽しい時間を共有しました。この様子を同学部の木村浩則学部長・教授(集合写真前列中央)が笑顔で見守りました。

西田さんは「中高と吹奏楽部でトランペットを吹いていたので、渡辺先生から声をかけていただき、とてもうれしかった！緊張しましたが、皆さんに僕のトランペットの音色を聴いてほしかったので、心に残る体験でした」と感動の面持ち。OBの宮脇さんは「音楽を通して、このメンバーと心を通わせることができ、とても幸せでした。観客の皆さんと一緒に手話や歌を楽しんでくださり、素敵なアートフェスタでした」と喜びを表しました。

高校 「英語スピーチコンテスト」学びの成果を発揮



入賞者を囲む出場者と関係者

高校生による「第46回英語スピーチコンテスト」が11月14日、駒込キャンパス・ジャシーホールで開催され、出場者一同、日頃の学びの成果をフルに発揮しました。

豊泉杏実さん(2楓)、種子田真穂さん(2楓)の司会により、高校生徒会長の桑原来々寧さん(2梅)が開会挨拶。緊張感の中でコンテストがスタートしました。各クラスの選抜を経て、Recitation(暗唱)部門7名、Speech部門Group A(一般生徒)5名、Group B(帰国英語履修者)2名、Presentation(審査対象外)2組が出場。島田昌和理事長、清水直樹高等部校長はじめ各教員、生徒、保護者が見守る中、ハイレベルな英語力を競い合いました。

審査員は、生徒が米国での英語研修でお世話になっているCollege of St. Benedict/St. John's University(セント・ベネディクト/セント・ジョンズ大学)のDr. Jeanmarie Cook、本校教員のMr. Allan Nisbetと外部講師のMr. Peter Starrが担当しました。

会場には高2生徒が参集し、高1・3年の各教室にはコンテストの様子がテレビ放送されました。皆、先輩、後輩、仲間の迫力あるスピーチに熱心に耳を傾けました。

厳正なる審査の結果、次の生徒が入賞しました。

【Recitation】1位=加藤凜奈(1楓) 2位=小川真由(1藤) 3位=早川結菜(1梅)

【Speech】(Group A) 1位=小檜山彩月(2藤) 2位=富樫伶衣(1藤) 3位=成田彩菜(1桜) (Group B) 1位=趙星怡(1桜) 2位=岩本真結子(1桜)

なお、趙さんには、島田理事長より同コンテストの最高賞「The Shimada Prize」が贈呈されました。各審査員からは、スピーチ内容と表現力への称賛、アドバイスが贈られ、生徒の大きな励みになりました。



小林学科長、渡辺助教のデュオ



当日の参加メンバー



演奏中の学生たち



皆で一緒に楽しむ

「音とアートがむすぶアートフェスタふじみ野2018」(主催:同実行委員会、ふじみ野市文化・スポーツ振興課)が11月25日、ふじみ野市立産業文化センターホール、ギャラリ、円形公園、ショッピングセンターソノカふじみ野を会場として開催されました。

本学からは、人間学部の教員と学生がホールでの演奏に出演。メンバーは、心

大学 「アートフェスタ」で教員・学生が共演

最初に、渡辺助教が「地域のつながり」をテーマに作曲したオリジナル手話うた「まのこえ」そのおとを伝えるために結成したグループ「ドーナツレモン」が登場。「明日があるさ」「空も飛べるはず」「おどるボンゴリン」などを手話を交えて披露し、会場一体となって楽しみました。続いて、西田さん、長嶋さん、渡辺助教が「サヨナラの意味」、西田さん、渡辺助教が「Mr. Heart」の「Love」を演奏し、大きな拍手を浴びました。

小林学科長と渡辺助教は、見事なデュオでラフマニノフ「ヴォカリーズ」、「ニュー・シネマ・パラダイス」より「愛のテーマ」などを披露し、美しい音色で観客を魅了しました。最後に全員で観客と共に「まのこえ そのおと」を歌い、楽しい時間を共有しました。この様子を同学部の木村浩則学部長・教授(集合写真前列中央)が笑顔で見守りました。

西田さんは「中高と吹奏楽部でトランペットを吹いていたので、渡辺先生から声をかけていただき、とてもうれしかった！緊張しましたが、皆さんに僕のトランペットの音色を聴いてほしかったので、心に残る体験でした」と感動の面持ち。OBの宮脇さんは「音楽を通して、このメンバーと心を通わせることができ、とても幸せでした。観客の皆さんと一緒に手話や歌を楽しんでくださり、素敵なアートフェスタでした」と喜びを表しました。